



# EPA・留学・技能実習 外国人介護従事者登用の 現状と今後を探る

国内の生産年齢人口減少等を背景に、介護人材確保のため、2008年度から外国人介護従事者の登用が行われてきた。まずはEPAの枠組みを利用し、その後は在留資格「介護」や技能実習生、介護留学生等、各種ルートを受け入れが進んできた。こうして順調に進みつつあるかに思えた矢先にコロナ禍が襲い、一時は予定していた人材が入国できない事態になった。混乱した現場は現在、ようやく動き始めている。

本特集では、そんな介護現場での外国人職員登用の現状をレポートするとともに、円安が進む現状を踏まえ、外国人雇用の今後を考える。

## インタビュー

### 技能実習法、在留資格「介護」創設にともない 外国人職員採用の枠組みを構築

山本 登

全老健 理事、一般社団法人神奈川県老人保健施設協会 会長

公益社団法人全日本病院協会 常任理事、国際交流委員会 委員長、外国人材受入事業 担当役員

一般社団法人横浜メディカルグループ 理事長

## レポート

### EPA介護福祉士候補者を毎年受け入れ 継続的なサポートで自施設での定着を図る

老人保健施設シルピス大磯 (愛知県)